



## 金持ちゲーム、貧乏ゲーム

「ゲーム」が盛り上がっている。といっても、ゲームボーイアドバンスやXboxのことではない。『キャッシュフロー』というボードゲームが、世界各地で熱心にプレイされているのだ。日本でも、2月くらいからゲーム会が開かれ始め、今では毎週のように全国のどこかでプレイされるまでになっている。

たまにでも本屋に行く人であれば、『金持ち父さん、貧乏父さん』（筑摩書房）という本が100万部に迫るベストセラーになっており、出版から5か月たった今でも平積みになっているのをご存知だろう。ハワイ出身の投資家ロバート・キヨサキが、高学歴だが経済的な苦勞が多かった実父を「貧乏父さん」と呼び、学歴は低いがハワイ有数の資産家になった友人の父親を「金持ち父さん」として、その双方から学んだ自分の体験から「リッチになるための考え方」を説いた話題の書である。『キャッシュフロー』は、その考え方をシミュレーションで学ぶ、教育を目的としたボードゲームなのだ。

「金持ち父さん」の哲学は、決して難解なものではない。「リスクを取って、不労収入を増やし、資産をきちんと管理すること。要約すると、これに尽きてしまう。そしてキヨサキは、金持ちになりたいければ「お金について勉強しなければならない」と強調する。その勉強の手段のひとつが、彼自身が開発した『キャッシュフロー』なのだ。

ゲームの仕組みは、サイコロを振ってコマを進める一般的なものだ。『モノポリ』をイメージしてもらえばいいだろう。普通のゲームと大きく異なるのは、ボードのマス目が大きく2コースに分かれていることだ。ひとつは「ラットレース」と呼ばれ、われわれのほとんどが実際に行っている「日々の仕事に追われる生活」コース。ゲームの最初の目的は、このラットレースから抜け出すことなのだ。脱出に成功した人を待つのは「ファストトラック」と呼ばれる「金持ちコース」である。ヨットを乗り回したり、慈善事業に大金を投じたり、大きなビジネスで「不労収入」をあげたりしながら、自分の夢を実現してゆくのだ。ゲームの最終目的は、その「ファストトラック」で、ゲーム開始前に決めておいた「夢」を購入することだ。「金持ち父さん」を真剣に目指す人も、そこまでピンと



ゲームに興味がある人は、  
下記のMLが『金持ち父さん』の公式ウェブサイトへ  
 [www.richdad.com](http://www.richdad.com)  
協力：ダウンロードステーション  
 [www.d-station.net](http://www.d-station.net)

来ない人にも、とりあえずは楽しく遊べるゲームであることは間違いない。しかし、英語版であることや、資産を管理するための財務諸表の記入方法など、普通の日本人にはややハードルが高いゲームでもある。それ以前に、ゲームそのものが通販でしか購入できないため、ボードを所有している人も、日本ではまだ限られているのだ。そこで、メールリストが活用され始めている。cashflow110@egroups.co.jpでは、アメリカ在住で『キャッシュフロー』に詳しい方を中心に、ゲーム会の案内やFAQへの回答などが、ボランティアに行われている。

私自身は2000年末にボードを入手してから、すでに数回プレイしているが、本を読むだけでは「知識」としてしか分らなかったことが、きわめて感覚的に会得できることを実感している。「習うより慣れる」の手軽な実践といってもいいだろう。「ゲームで何が学べるのか？」と、あななどる人もいるかもしれないが、アメリカでは大学のMBAプログラムや企業のトレーニングの場で、高度なシミュレーションゲームを教育目的で取り入れるのはごくあたりまえのことだ。『キャッシュフロー』は、学術的な専門用語が出てくるような高度なものではないが、「金持ちになるためのルール」を学ぶには必要にして十分なレベルだと思う。ゲームで学んだあとは、もちろん実践あるのみだ。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)